

整理番号	2023P-	137	補助事業者名	公益社団法人全国精神保健 福祉会連合会	事業項目名	精神障害者の家族による家族学習会プ ログラム普及事業
------	--------	-----	--------	------------------------	-------	-------------------------------

別紙 JKA補助事業 2023年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2024	年	5	月	14	日	作成者	高村裕子
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5 ①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。				採点	
(1) 受益者 (ニーズ)	受益者は、発症間もない精神疾患をもつ当事者の家族である。今年度は全国54ヶ所で開催し、344名の家族が語り合いをベースとした本学習会に参加、仲間や体験に基づく情報を得ることができた。そして、その後の本人および家族の治療への向き合い方、本人への対応等に対して有益となっている。加えて、この学習会での体験から、家族会への入会へと進むケースもあり、家族会の活性化にもつながったといえる。精神疾患や障害については社会の偏見や差別も根強く、十分理解されていないのが実情である。精神障害者の家族による家族学習会(以下、本学習会)は上述の状況に加え、知識や情報が不十分な状況であり、かつ、誰かに相談したり悩みを聞いてもらう機会も得られない中、本人をケアをしている家族への適切なサポートを提供できた。			5	
(2) 事業内容	1. 家族支援ピアサポートセミナー:大分県、北海道にて合計2か所実施した。 2. 家族学習会ファミリーテーターの養成・フォローアップ:担当者養成研修会として16か所(岡山、神奈川(独自事業)、埼玉(独自事業)、静岡、佐賀、福岡、沖縄、広島、岐阜、宮城(独自事業)、群馬、リモート(3回、内きょうだい版1回)開催し、アドバイザー研修会およびアドバイザーフォローアップ研修会を各1回開催した。 3. アドバイザー派遣事業:54か所(内、独自事業4か所)に44名を派遣した。 4. 企画委員会:計画通り、4回開催した(5月22日、9月16日、12月4日、3月18日)			採点	
事業の 新規性 または 継続の 必要性	貴補助事業として実施してきた成果により、本事業の意義や必要性の理解が促進され、徐々にこの「家族による家族学習会」プログラムが広がってきている。が、一方で実施エリアを見ても活発に実施している地域と未実施の地域との地域間の格差が顕著であり、その点が課題となっている。精神障害者家族会は、会員の高齢化や活動の衰退化が指摘されている中で、本学習会の実施により、会員の増加や若年層の入会につながっている実態もあり、プログラムの効果が示されていると考える。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、今年度は本事業の開催カ所数が徐々に増えてきてきた。引き続き普及活動が必要であると考えておりこの流れを確実に定着させていきたい。			5	
事業の 発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計 画・ 体制	1. 家族支援ピアサポートセミナーの開催については、3か所の予定が2か所となったが、2か所ともセミナーを通じて本学習会の開催につながり、セミナーの目的を十分果たすことができた。2.3.については計画を超えるカ所数での開催となり、上述の通り、本プログラムの広がりが示された。一方で、3.については本学習会の開催地域にアドバイザーがなく、近県や場合によっては遠方から派遣する必要があり、派遣にかかる費用負担等が大きな地域もあった。今後は運営体制の見直しを検討したい。4. 企画委員会については計画通り実施した。			5	
(3) 達成 目標	事業の 実施 結果	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	参加者		90%	1.家族支援ピアサポートセミナー:大分県16名+北海道11名=27名(30%) 2.家族学習会ファミリーテーター(担当者orアドバイザー)の養成・フォローアップ:231名(96%) 3.アドバイザー派遣事業:108回(135%) 4.企画委員会の開催:68名(85%) *平均86%により、目標値の90%に届かなかった	4
(4) 情報 発信	事業の 成果・ 波及	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	参加者の満足度		100%	家族学習会の運営に関する理解度についてアンケートを実施した。「4大変満足」および「3満足」を足したところ91%であり、目標の80%を達成することができた。	5
(4) 情報 発信	事業の 実施 結果	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	配信回数		100%	主に当会の運営するホームページ内に新規でJKA補助事業のページを作成し、本学習会および各研修会開催状況について、随時情報を更新した。また、当会の運営するオンラインサロン、メールマガジンでも配信を行った。年12回の目標値は大幅に更新したため、目標を達成できた。	5
(4) 情報 発信	競争・オ ート レース補 助金によ る事業で あること	[達成値]	[達成状況]	[具体的内容]	採点
	配信回数		100%	事業実施の際に競争補助金により実施される事業であることを周知するため、実施時のチラシや案内文等の書類にはロゴマークの掲載、主催者挨拶等の際にもその旨を伝えた上で開催に臨んだ。 1. 家族支援ピアサポートセミナー(2回) 2. ファシリテーター養成研修(10回、補助事業対象カ所) 3. プログラム実施カ所(50回×5回=250回、補助事業対象カ所) 4. 企画会議(4回)のそれぞれにて発信した。合計266回	5
(5) 自己評価 の 体制	事務局にて総合および個別評価をおこなった。この結果については次年度の企画委員会開催時に報告する。評価結果の公表については、当会ホームページにて公表した。			4	

(b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。

(1) 事前計画 (2/5)記載の「補 助事業の直接 的な目的」を踏 まえた、事業全 体についての 意見・所感	これまで述べてきたとおり、精神障害者を抱える家族は悩みやつらさを誰かに相談し、話すことが困難であり、多く家族が地域社会の中で孤立した状況下にある。そのような家族が同じ立場の家族と出会う機会の一つに本学習会がある。本学習会は家族自身が語ることを通じて仲間を得、障害の受容や内なる偏見の払拭にもつながるものである。今年度は、大分県と北海道にて新たに本学習会の開催が始まったことに加え、リモートでの開催が増えたこと、さらに今年度は家族の中でも親、きょうだい、パートナー、こどもといった立場ごとに開催し、その立場同士での悩みや本人への思いを共有、共感できるような場を設定した。申し込み時はすぐに定員に達し、参加者のニーズの高さが明らかとなっている。
(2) 優れている 点・課題、改善 すべき点	継続的・計画的に事業を展開し、プログラムを必要とする家族が参加することによって、精神障害に対する基本的知識を持ち、当事者に適切な対応ができる家族が多くなる。このことにより当事者の回復力を高めることができ、さらには精神障害への理解や偏見をなくしていくことにもつながることが期待できる。家族学習会に参加した家族は、次には担当者となり、その次にはアドバイザーとしてステップアップしていくという人材育成の仕組みがある。これらファシリテーターは自身もエンパワメントされるとともに、社会貢献の一翼を担うことが可能である。
(3) その他、ア ピールしたい 点、是非知って もらいたい点	継続的・計画的に事業を展開し、プログラムを必要とする家族が参加することによって、精神障害に対する基本的知識を持ち、当事者に適切な対応ができる家族が多くなる。このことにより当事者の回復力を高めることができ、さらには精神障害への理解や偏見をなくしていくことにもつながることが期待できる。家族学習会に参加した家族は、次には担当者となり、その次にはアドバイザーとしてステップアップしていくという人材育成の仕組みがある。これらファシリテーターは自身もエンパワメントされるとともに、社会貢献の一翼を担うことが可能である。一方で、本学習会は5回のセッションを基本としているが、地域によってはアクセス等の困難さから参加が難しかったり、療養中の本人が自宅にいるため外出が難しく開催に格差があることが課題である。

【事業費】

整理番号	2023P-	137	補助事業者名	公益社団法人全国精神保健 福祉会連合会	事業項目名	精神障害者の家族による家族学習会プ ログラム普及事業
------	--------	-----	--------	------------------------	-------	-------------------------------

別紙 JKA補助事業 2023年度 事前計画／自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)~(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部 要因	*		(1) 経費	(1)貴財団の補助事業として実施できたことで、経費負担が軽減された。 (2)家族会員の高齢化により、「担当者」や「アドバイザー」を担う会員が決まってしまう、負担増になっている。	(1)引き続き、自立した運営について検討していく。 (2)本学習会を通じて新しい会員となった方にも積極的に担当者養成研修会やアドバイザー研修会への参加を勧めていく。
		*	(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の変更 (主に建築)		
			(7) その他		
外部 要因	*		(8) 受益者の規模・ニーズ	(8)コロナが5類に移行されたこともあり、開催か所数が予定よりも大幅に増加し、ニーズの高さが明らかになった。また、オンラインでの開催を増やしたこと、立場ごとでの開催が参加者の参加のしやすさにもつながった。	(8)今後も引き続き、オンラインでの開催を検討していく。
			(9) 実施体制以外の団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度の変更		
			(11) 利害関係者(受益者以外)の要望への対応		
			(12) 災害の発生(地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術開発		
			(14) 競合するサービス・事業の出現		
			(15) その他		
		(16) 特になし			